令和3.8.25制定

**外国語教育メディア学会（LET）**

**機関誌投稿論文チェックリスト**

「研究論文」として投稿される方は 1 2 3 4「実践報告」として投稿される方は 1 2 3 5のすべてを確認し，チェック☒を入れて，投稿論文と共に提出してください。

このチェックリストの提出がない場合，論文は受理されませんのでご注意ください。

|  |
| --- |
| **1. 投稿資格** |

(1) 投稿者全員がLET会員である。

(2) 投稿者全員が本年度までの会費を納入している。

(3) 8月31日までに投稿申し込みを学会ホームページ上より行った。

(4) 投稿論文は，外国語教育を中心とする言語教育の理論および方法，もしくは，それに利用される教育メディアの研究に関するものである。

(5) 投稿論文は未公刊のものである。

(6) 11月30日（日本時間）24時までにMS Word（docもしくはdocx），およびPDFの2つの  
ファイルを提出する。

(7) 採択された場合、J-Stageでオンライン公開されることを理解している。

(8) 投稿規定の内容および研究倫理に関する事項に照らして問題があると判断された場合、投稿された論文は審査の対象外となる場合があることを理解している。

|  |
| --- |
| **2. 著作権・倫理的配慮** |

(1) 出版物を論文中に転載する場合は，その使用と掲載にあたり，版権所有者の許可を得ている。

(2) 研究参加者がある場合，研究内容・参加方法・結果の公表などについて必要な説明を行ない，研究参加者の同意を得た旨が本文中に明記されている。

(3) 差別的な用語や表現を使用していない。

(4) 研究上の利点を述べる以外の場合において，ある特定の商品（ソフトウェアなど）の宣伝となるような文言は含まれていない。

(5) 上記のほか、所属機関などにおいて著作権や倫理的配慮などについて規定が定められている場合はそれらに従っている。

(6) (1)-(5)で示された点あるいはそれらに付随する著作権・倫理的配慮、および研究倫理一般については投稿者の責任において遵守するものであることを理解している。

|  |
| --- |
| **3. スタイル・文体** |

(1) フォント種類，サイズ，行数，文字数，その他のスタイルが学会ホームページ上で指定された投稿規定，およびテンプレートに従って執筆されている。

(2) スタイルはAmerican Psychological Association (APA) のPublication Manual第7版に基づき，しっかりと推敲されている。特に以下の点は論文中で統一されている。

・文献の本文中引用方法

・参考文献の書き方

・図・表の提示方法，タイトルの適切さ

・統計記号の小文字・大文字・イタリックの別

・小数点以下桁数の統一

(3) 参考文献の本文中引用と文末一覧はすべて過不足なく対応しており，つづりや刊行年に不一致はない。

|  |
| --- |
| **4. 研究論文のチェック項目** |

審査においては，査読者が以下の項目を最低限チェックします。

以下の項目を事前によく読み，確認した上で，論文を作成・投稿した。

(1) 研究の意義がはっきりと示されている。

(2) 研究課題（Research Question）や仮説の形成過程・必要性が十分に述べられている。

(3) 当該課題の先行研究レビューがバランスよく十分になされている。

(4) 論理・構成が明確であり，一貫性がある。

(5) 新しい知見を見出すために必要な一定の独創性がある。

(6) 参加者に関してサンプリング方法なども含め，詳しい記述がある。

(7) 研究手順が明示的に述べられており，再現性がある。

(8) 分析手法は研究目的に照らして適切である。

(9) 論の検証に必要な結果が適切に提示されている。

(10) 得られた結果に対する解釈は適切なものである。

(11) 考察は先行研究や理論と関係づけて議論している。

(12) 考察セクションで，レビューにおいて検討していない先行研究を新たに持ち出していない。

(13) 研究結果に関連づけて，研究ならびに教育への示唆が明示されている。

(14) 可能な限りデータ収集方法を多く用いている。

(15) 研究の問題点や今後の方向性についても記述がある。

量的アプローチ

(16) 統計的手法は，その適用・前提条件や判断基準を十分に踏まえたものである。

(17) 統計的仮説検定では，有意水準だけではなく，効果量への言及がなされている。

(18) テストや質問紙を使用した場合，測定道具の妥当性・信頼性についての言及がなされている。

(19) 今後の研究で再分析をするのに十分な情報を掲載している（例えば，平均値，標準偏差，サンプル数，分散・共分散行列など）。

質的アプローチ

(20) 参加者や調査の対象とした環境についての詳しい記述がある。

(21) 著者の参与の度合いが明示的に述べられている。

(22) 採用した立場や方法論が十分に説明されている。

(23) データをできるだけ生の形で提示し，詳細な説明（厚い記述: thick description）を行っている。

(24) 結果の提示と解釈をきちんと区別している。

(25) 結果を過度に一般化していない。

(26) 質的研究の評価基準（外的・内的妥当性や内的信頼性など）をチェックしている。

|  |
| --- |
| **5. 実践報告のチェック項目** |

審査においては，査読者が以下の項目を最低限チェックします。

以下の項目を事前によく読み，確認した上で，論文を作成・投稿した。

(1) 実践報告の必要性が記述されている。

(2) 過去の実践・理論がバランスよく，十分にレビューされている。

(3) 参加者や調査の対象とした環境についての詳しい記述がある。

(4) 実践の内容が過不足なく述べられている。

(5) 結果の提示・解釈では，主観的・恣意的な記述にならないよう心がけられている。

(6) 実践の問題点や今後の方向性についても記述がある。

(7) その他，「4. 研究論文のチェック項目」で該当するものを満たしている。

令和3.8修正

（以上）